

---

# 幸せな日々

翼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幸せな日々

### 【Nコード】

N6458S

### 【作者名】

翼

### 【あらすじ】

女の子にまったく言っていないほど興味がない主人公相田 翔は転校生である大崎麗香と出会った。

女の子に興味がない翔が徐々にひかれていくが…

翔には辛い過去が…

そんな中お互いにひかれあう気持ちを書いてみました。

## 幸せな日々

。

……い」

「お……い……」

「お……い……」

「うわっ！」

ガタンッドスン！

「いってえ……！何すんだよ母さん……！」

「起こしてあげたのにその態度はなんなの……！」

「今日、高校の始業式よ？忘れたの？」

「知ってるよ！だけど、こんなに早く起こさなくなっ  
ていいじゃん……！」

「なにバカ言ってるのよ！？遅刻するよ？早く着替えて……！」

「はっ？まだ7時じゃねえかよ！はあ……とうとう年で頭がおかしくなったのか……」

「誰が……おかしいですって……翔くん？」

「いや…あの…何も言っていない…ですよ…いつも綺麗なお母様…」

「だよね…あつ！早く行かないと！」

「だから…まだ7時だって言ってる？」

時計を見たオレは固まった。

そう！時計は8時15分を差していたのでした（笑）

「つて！そんなこといつてるばあいかなぁ…！！！」

「着替えるから早く母さんでてって！」

「は…い ちなみに…今日母さんも寝坊したから…朝御飯ないからね」

「なんで寝坊してんだよ！」

くっそお…！初っぱなから遅刻はマズイだろう…！！」

ガタガタガタ…ガチャ！

「……行ってくる！」

「行つてらっしゃい」

（走れば間に合う！）

おっす！

そういえば自己紹介がまだだったな！

オレは相田 翔だ！

そして母さんは相田 礼子。

いつも楽しく、気楽に生きてる。今年で32歳！  
なんとオレを16歳で産んだという。

まっ！そんなのはいいか！今年で高校2年になる。神野高に通ってんだぜ！  
よろしくな！

あっ！ヤバイ！！あと5分しかない！

ごめん！急ぐからまた後でな！

「おりゃー！」

「…間に合うか？…ボタンっ！…………間に合ったあー」

「おおー！初っぱなから遅刻なんてさすがだねー翔！…ああでも残念！あと3分早ければ間に合ったのになあー！」

「何言つてんだよ海斗…先生来てないじゃん…はあ…はあ…オレの勝ちだー！」

「ほれ！後ろ見ろ！」

「はっ？…後ろつて…誰もい…ない…えっ？」

「相田くん…なんで…遅れたのかな？」

翔は走った汗とは違う汗が流れるのを感じた。

「いやあ…寝坊で…あははは…」

「そっか しょうがない子だねー」

「…ギクツ！せ…先生？…目が…笑ってないですよ…」

「そう？なんでだと思っ？」

「それは…え…っ」と…」

翔は海斗に助けを求めたが…視線を合わせてくれない…

「翔く…ん？今日はもう我慢が限界よ…！罰を与えなくちゃね？」

「えっ！そんなっ！」

「文句でもあるのかな？相田くん…」

「…いえ…ありません！」「じゃ放課後雑巾がけね？」

「…はいっ」

その光景を見ていたクラスの皆は腹を抱えて笑っていた。  
…とくに海斗！！

「は…い！みんな静かにして…！」

先生が手を叩いて皆を教卓の方へ向かせた。

「今日はなんと転入生がきてます！」

「しかも…女の子だよ！」

クラスの男子が目を光らせていた。

翔をのぞいて…

「それじゃ入ってきなさい！」

ガラガラ…

ドアが開いた方にクラスの皆の視線がそそがれた。

「「おお～～～！！」」

男子だけでなく、女子までもが驚くぐらい、綺麗で可愛い女の子が入ってきた。

「それじゃ自己紹介してくれるかな？」

「はいっ！私は大崎麗香と言います！皆さんよろしくね」

自己紹介を聞いた皆は、もう興奮状態だ。

「おい！翔！あの子可愛くないか！？ヤバすぎだろ！」

「…んっ！…そうだな…」

「おいおい…それだけかよ？…ただ興味ねえんだよ…女の子に興味ねえ男なんて、そうはいねえぞ？…まさか！…お前ゲイか？」

「ぶっ！…バカかお前！！ふざけんな！」

翔は少し不機嫌になった。横で海斗が謝るも、まったく聞く耳を持たないで、無視を続けた。

「んじゃ～大崎さんの席は～…相田君の隣ね！田島君！席移動して！」

「えっ！オレ移動！？…マジかよ…翔と離れんじゃん！つまんねえ」

「じゃあなあゝ海斗！」

「ああゝ…でもいつか！眩いほどの女の子が来たんだし！」

「どんだけ女の子好きなんだよ…」

翔は海斗の女の子に対しての異常なほどの執着に少し引いてしまった。

翔は机に顔をつけながら窓から見える空を見ていた。

「んじゃ大崎さん席についてね！」

「はいっ！」

麗香は翔の横の席につくと、翔に話しかけた。

「あのゝ…」

「んっ？」

「大崎麗香と言います！よろしくね？」

「ああ…よろしく。オレは相田翔。よろしくな」

「うん！翔君だね　えへへ」

「……うん」



顔やスタイルなどモデルよりもいい。すれ違えば誰もが振り返る、そんな子だ。しかし、翔だけはまったく興味がないようで、素っ気ない返事をして終わった。

これがこの物語の主役である！

相田 翔と大崎麗香の出会いである。

これからどうなるのか！

ご期待ください！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6458s/>

---

幸せな日々

2011年10月9日00時22分発行